

郷土愛あふれる子

以前、こんな子（Aさん）がいました。

Aさんは、授業中、席に座ってはいるけれど、自分の気に入った社会科資料集を読んでいることが多く、先生の話や友達の発表はそちらを見て聞くことはありません。でも、耳では話が聞こえているのか、自分の興味のある内容になると反応して、「それは違います。それはこうでこうなります。」と、先生の話に割り込んで話してきます。まるで、教室の中には先生とAさんしかいないかのように。音楽の時間に、4人グループで、自分の作った曲をリコーダーで演奏して、お互いに感想を交流することをしていました。先生から言われたことを聞いていた他の3人は、曲の終わり方を先生の言ったようにしていました。でもAさんは、先生の話聞いていなかったのか、曲の終わりを先生が説明したとは違うやり方をしていました。Aさん以外の3人の子が順番に自分の作った曲を披露すると、Aさんは、「とても素敵な曲になっていたよ。」と感想を言います。でも、自分の思っている曲とは違う雰囲気曲になっている時には、感じたままに「今の曲、よくないと思います。」「真ん中のところの曲が変な感じでした。」と、ストレートに感じたままの意見を言います。ちょっと、その意見は相手を傷つけるかなと思うようなこともお構いなしです。でも、Aさん以外の3人の子はAさんがどういう子が知っているのも、傷つく意見も、Aさんだからしょうがないと受け入れています。逆に、Aさんの曲の演奏が終わって、Aさんから感想を求められた時、みんな反応に困っていました。それは、3人の子は、曲の終わり方が先生の言ったようになっていないと指摘すると、Aさんが泣いたり怒ったりすることは分かっているので、一瞬、どのように反応すればよいかと言葉に詰まってしまったのです。そうすると、Aさんは、何も言わないということはよくなかったと思っているのでしょと泣きながら訴えます。他の3人の子は、そうじゃなくて、曲はよかったけど、曲の終わりのところが、先生が言ったようになっていなかったよと伝えましたが、どうせ、私の作った曲はよくなかったのでしょと泣いて怒って、收拾がつかなくなります。

勝ち負けにはとてもこだわります。運動会では、自分が所属している団が負けてしまうと、1週間くらいの間、立ち直ることができません。

こんなAさんですので、担任の先生は、いつも目が離せません。毎日が、Aさん中心に動いているといっても過言ではないと思います。それでも、Aさんが何か気になることがあると、教室を飛び出したり、次の授業や活動に移ることができなかつたりします。